

## 葉集を読む

松岡 隆子

朝寒や仕事復帰のハイヒール

三宅まどか

〈仕事復帰のハイヒール〉とはまことに爽快だ。朝の冷気にコツコツコツと響くハイヒールの音に、真つすぐに背を伸ばし颯爽と歩いて行く姿が髣髴する。その音は仕事復帰の気持ちの張りの音でもある。ハイヒールは若さの象徴、仕事の道も俳句の道も大いに闊歩していつてほしい。同時作の（一句詠むつもりを釣瓶落しかな）の抒情にも心惹かれた。

綿虫に戻れる処ありやなし

鈴木 富代

冬の初め、ふつとどこからともなく湧きだすように現れ、空中をふわふわと漂う綿虫は不思議な虫だ。小さな祭のような姿は掴みどころがなく、人の手を逸れて何処へともなく消えてゆく。即ち〈戻れる処ありやなし〉なのである。まるで魂が浮遊しているような儚さを感じる。

フレイル予防参加と書いて悴める 眞保 勝江

コロナウイルス感染症が蔓延するなか、三密、ソーシャルディスタンス、ロックダウン、クラスター、などという耳慣れない言葉が溢れだした。フレイルもその一つ。フレイル（虚弱）とは加齢により心と体の働きの弱くなってくる状態をいい、外出自粛の長期化に伴い問題視されるようになってきた。自治体などでもフレイル予防の対策が立てられ、運動や社会参加などを呼びかけている。眞保さんの町でもフレイル予防の催しがあったようだ。参加と書いたものの高齢の身の体調を慮っている。〈悴める〉が複雑な気持ちを代弁している。

行く秋の杖を頼りの歩幅かな 田中 律子

加齢に伴う身の不都合は多かれ少なかれ誰にも生ずる。腰痛や膝の痛み、更には骨折して手術をしたりで杖が必要になってくることもある。杖の効用は大きい。慣れてくると歩幅も安定して軽快に歩けるようになる。田中さんはいま杖を恃みに自らを励まし、俳句のある生活を楽しまれている。

鴟猛る心決まらぬその朝に 宮当 信行

あれこれと思い煩って決心がつかないまま何日か過ぎた。タイムリミットのその朝、突然鴟が鋭く鳴いた。鴟の声に促されやつと決心がついた。などという状況が読み取れる。上に置かれた〈鴟猛る〉と中七下五の柔らかな言い回しのバ